

取締役会の実効性に関する評価結果の概要

当社は、取締役会が実効性高く運営され、企業価値の向上の実現をはかっているかを検証するため、毎年1回、取締役会の実効性について分析・評価をおこなっております。

2023年度の分析・評価の方法および評価結果の概要は以下の通りです。

1. 分析・評価の方法

評価対象期間	2023年4月から2024年3月に開催された当社取締役会（全12回）
評価者	当社取締役11名および監査役3名
評価方法	<p>2024年2～3月 取締役会事務局が作成した「取締役会の実効性に関する自己評価書」（アンケート）を全取締役及び全監査役に配布し、回収。</p> <p style="text-align: center;">▼</p> <p>2024年3～4月 アンケートで得られた結果および意見について、取締役会議長を中心に分析・評価を実施。</p> <p style="text-align: center;">▼</p> <p>2024年5月 取締役会に分析・評価内容および今後の課題に対する対応策（今後のアクションプラン）を報告。</p> <p style="text-align: center;">▼</p> <p>今後のアクションプランに沿った取締役会運営を実行するとともに、取締役会にて更なる改善に向けた方策等について議論。</p>
評価項目	<p>以下の大項目毎に、個別設問および自由記述によるアンケートを実施。</p> <ol style="list-style-type: none">取締役会の役割・機能取締役会の規模・構成取締役会の運営社外役員（取締役・監査役）への情報提供・連携投資家・株主との関係前年度からの改善状況総合評価 <p>※「4. 社外役員（取締役・監査役）への情報提供・連携」は、社外役員のみ回答。</p>

2. 分析・評価の結果の概要

全体として「概ね適切である」との評価がなされた一方、実効性を高めるために改善を要すると指摘がなされた項目もありました。評価を通じて指摘された課題については、継続的に改善をおこない、取締役会の実効性向上に取り組んでまいります。

3. 評価で特定した課題と今後の対応について

特定した課題	今後の対応
中長期的な目標を踏まえた継続的な議論	<ul style="list-style-type: none"> ● 取締役会の監督機能の強化および中長期目標の達成に向けた取り組みを後押ししていくため、グループガバナンスに関する議論の充実をはかる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ホールディングカンパニーの果たすべき役割に関する議論。 ・ 事業ポートフォリオマネジメント、経営資源配分、重要な経営リスクに関する議論。 ● サステナビリティへの取り組み、ダイバーシティ&インクルージョンの強化に関する議論の充実をはかる。 ● 取締役会以外の場での執行サイドと社外役員とのコミュニケーション機会（情報共有・意見交換・アドバイス）を増やす。
取締役会の規模、構成	<ul style="list-style-type: none"> ● 実効性向上の観点から、取締役会の員数やメンバー構成に関する継続的な検討をおこなう。
取締役会に付議される事項の範囲、審議時間	<ul style="list-style-type: none"> ● 議論の質の向上に向けて、取締役会付議基準の見直しおよび執行サイドへの権限移譲をおこなう。 ● 効率的な取締役会運営に向けた取り組みを推進する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ メリハリをつけた議事進行（定例議題は書面による簡潔な説明を進めるとともに、重要議題の審議には十分な時間を費やす）。 ・ 取締役会のDX推進ツールの導入による会議運営の効率化。
オープンで活発な議論	<ul style="list-style-type: none"> ● コーポレートガバナンスの高度化に向け、取締役に期待される役割・責務を果たす上で必要となる知識習得・向上の機会（役員トレーニング）を継続的に提供する。
投資家との関係	<ul style="list-style-type: none"> ● 投資家の意見・要望等を適宜取締役会にフィードバックする。

以上